

はしらざわ

第5号 令和二年三月一日発行

発行 柱沢地域まちづくり振興会

編集 総務企画部会

問合せ先 柱沢地区交流館 電話五七五〇八六〇

念頭にあたって

柱沢地域まちづくり振興会長 菅野 政一

新年あけましておめでとうございます。

令和になって初めての正月は、例年になく暖かい正月でした。毎年雪は少なくなっているようで、夏が心配です。

昨年も事件や、災害が多かったようです。特に十月の台風十九号の大雨による被害は、伊達市にも大きな被害をもたらしました。あれから三ヶ月が経とうとしています。まだまだ復旧が進んでいませんが、被害に遭われた方々には、一日も早く元の生活が出来るように、お見舞い申し上げます。

振興会も発足して五年がたちました。前会長の後を引き継いだわけですが、何もわからず役員の皆様に助けて頂いて何とか過ごすことが出来ました。二年の任期もあと一年あります。今年一年地区の活性化・地域づくり地区の皆様の一助になればと思っております。今後ともご指導・ご協力宜しくお願い申し上げます。

今年も、災害の少ない良い年でありますように願って、新年の挨拶と致します。



幼稚園運動会



ハロウィン



学習発表会

一歩前へ

所沢下自治会長 大戸 善明

私は自治会の役員として携わって早、六年が経ちます。何事にも一歩勇気を持って進んで頂きたいと思えます。

ある新聞に掲載されていたことですが、『子育て』で悩む母親の事ですが、ベテランの老婦人のアドバイスは『子育て』という考え方でした。前者は、子供を作り上げていくから悩むのだと。後者は愛情を持って見守っていくということ。又ある文豪作家も語っていました。子供は子供であるけれど『小さな大人』として大切に見守っていくことが大切であると。地域の子供たちは、未来を作っていく大切な人材だと思います。

自分は、地域社会の為にどのようにお手伝いできるのかと思えます。町内会や自治会の役員もしかり出来るだけ避けようと思いがちであります。勿論個人においては、仕事や家庭があり忙しい毎日であると思えます。どこを見ても少人数の中でやりくりをしているのです。

私が望むのは、視点を変えて他人でなく自ら変われば周りが変わると思えます。勇気を抱き一歩前へ進んでほしいと希望するのです。



紅屋峠千本桜写真コンテストを盛大に開催

総務企画部会長 石神 政一

柱沢地区のメイン行事である紅屋峠千本桜まつりは昨年四月に盛大に開催されました。桜まつり開催中には雪が降る場面もありましたが、第三回紅屋峠千本桜写真コンテストが例年通り実施され、参加者九十三名、応募数百八十二点と多数ありました。伊達市をはじめ近隣の福島市、桑折町、国見町などの方々から素晴らしい作品のご応募いただき大変な盛り上がりとなり有難う御座いました。主な受賞者は次の通りです。

■伊達市長賞

なごり雪

鈴木 宏 様

■実行委員長賞

祝桜雪

八巻哲宜 様

■紅屋峠千本桜の会長賞

満開の花燦燦と 大戸 実 様

入選作品五点、佳作十点という結果となりましたが、惜しくも選に漏れた方々の作品も負けず劣らずの素晴らしい作品ばかりでした。

今年も五月に第四回紅屋峠千本桜写真コンテストを開催する予定でありますので、柱沢の皆様のご参加を期待致しております。

総務企画部として機関紙「はしらが

わ」を年一回発行してその年の柱沢地域まちづくり振興会の活動内容を報告し皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



なごり雪(鈴木 宏)



祝桜雪(八巻哲宜)



満開の花燦燦と(大戸 実)

健康福祉部会として

健康福祉部会長 橋本 憲三

毎年健康づくり事業の部で柱沢地区の皆様と一緒にウォーキングを行っております。令和元年十月二十日高野方部のわらざ山に決定し参加者募集致しました。ところが台風、大雨により崖崩れで通路通行止めとなり中止となってしまいました。本当に残念に思っております。

令和二年十月ころにはまた予定しておりますので皆様一緒に楽しいウォーキングを出来ます事を願って居ります。

尚福祉部開催の柱沢まちづくり、ふれあいカフェにつきましては、令和二年二月十五日に実施致しました。ご協力ありがとうございました。



ふれあいカフェ

第三十四回柱沢地区文化祭について

柱沢地区文連協会会長 柳沼 吉隆

柱沢地区文化祭は十月二十七日に開催されました。今年は大風十九号やその後の大雨で被害が多発し地区内でも避難を余儀なくされるなど大きな爪痕を残しました。文連協も予定されていた竹灯籠教室が中止となり作品の展示をすることができませんでした。

しかし小学校の学習発表会やバザーの同時開催もあり多くの方々の参加がありました。園児や児童の作品は心温まるものばかりで参観者から笑顔が絶えませんでした。

当地区の文化祭は資料の展示だけでなく写真や手作りの作品が多く、毎回皆様々から好評価を得ているところです。今年の秋も三十五回目の文化祭を予定しておりますので皆様多数の展示をお待ちしております。



令和

地域づくり部会長 大河原 明

令和元年の振興会まちづくり部会の事業を振り返って見れば、楽しく事業を行えた事は、各方面からの協力に感謝する次第です。

九月十五日には、お笑い講演会では、令和を笑いで包んでスタートさせるべく、マコ&シローを講師に迎え、歌とお笑いピンゴゲームで講演を盛り上げていただき、参加者もマコさんのお話に笑い、シローさんのアコーディオンと共に歌い楽しいひと時を感じていただけたのではないのでしょうか。やはり、笑う門には福来るで、平和な令和であって欲しいと私は思っております。

なお、もち米を田植えから収穫まで管理していただいた先輩方々と各方面の皆さんにも感謝申し上げます。

しめ縄づくり餅つき大会には約七十名の参加をいただき人生の先輩方丸めた鏡餅をお正月に自宅に飾られ、令和初のお正月を感じて頂けたのは、世代間交流事業の大きな成果ではないでしょうか。

最後に、柱沢地区住民が笑顔の中で、今後集める事業を考えていきたいと思っておりますので、どうか今後も多く



の方々には振興会事業に参加していただき、ご意見をお願いしたく結びいたします。

紅屋峠千本桜の会について

紅屋峠千本桜の会会長 松浦 健

柱沢地域皆様方には里親活動、桜まつりの運営協力、参加等で大変お世話になっており感謝申し上げます。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、紅屋峠千本桜の会の組織と活動について簡単に説明したいと思えます。桜の会は、柱沢、村岡、八幡台地区に居住する者をもって組織し、役員柱沢財産管理委員会を中心に柱沢六自治会長、村岡八幡台の町内会長、消防団第三分団長、柱沢婦人会代表、JA女性部代表、地権者代表、顧問の皆様方で運営しております。



本年度の活動としましては四月第二日曜日の第十七回 桜まつりの運営、案内所の開設、来場者数集計(八日間)七月初旬中央道路西側に曼珠沙華の球根植え付け(二千五百球)及び除草作業を行いました。このような活動にご協力して頂ける入会者を募っておりますので興味がある方は連絡をお願い致します。

桜の里親も随時募集中ですので、何かの記念等に是非とも里親を担っていただきたくお願いいたします。尚里親の受付は伊達市役所保原総合支所で行っております。

桜まつり



防災訓練について

環境防災部会長 野田 昭

第三回柱沢地区防災訓練を昨年十二月八日に実施いたしました。消防団防災学習車を借りて、煙ハウス（濃煙体験）・ガスの火を水消火器で消す初期消火訓練・天ぷら油の火災実験を行いました。参加者は八十一名でした。

台風十九号を覚えていますが。最も人的被害の大きかったのは福島県でした。阿武隈川が氾濫し、梁川町では二階まで浸水した家屋も多く未だに癒えていません。

昭和六十一年の『八・五水害』・平成二十三年の『東日本大震災』がありました。これからますます温暖化が進むと台風の進路も過去の常識では考えられないコースを進むのかもしれないし、想像以上の災害になるかもしれない。柱沢地区も例外ではないと思います。

防災訓練を続けていくことが大切な事だと思います。多くの方々に参加いただきたいと思います。



はしらざわ暮らしの保健室

柱沢地区交流館 事務 鈴木

暮らしの保健室を開催して今年で二年目になります。皆さんの参加協力もあり、令和二年一月での参加人数が延べ百二十人になり、交流の場として活用して頂いていると思っております。令和二年度も皆さんのお役に立てるミニ講座内容を考え開催していきたいと思しますので、参加お待ちしております。



第1回暮らしの保健室

プログラム

- 10:00～10:30 お茶を飲みながら歓談
 - 10:30～11:30 ミニ講和
(専門担当者をお迎えしてのお話し)
 - 11:30～12:00 お茶を飲みながら歓談
- ※送迎希望の方は、交流館に前日までに連絡お願い致します。
7アミーユの担当職員がお迎えに行きます。

ちまき作り教室

令和元年六月八日に、振興会で作ったもち米を使ってちまき作り教室を開催しました。参加者十二人で初めて作る方もいましたが、講師は地域の方に来ていただき賑やかに楽しく美味

しいちまきを作ることができました。

これからも教室を開催していきたいと思しますので、皆さんの参加をお待ちしております。



5年生による清掃活動



ありがとうございました。

会員募集のお知らせ 柱沢婦人会

地域のつながり・ふれあいの中で仲間作りをしてみませんか
(問い合わせ)
柱沢交流館へ TEL 575-0860
又は各分会長へ

編集後記

はしらざわ広報誌第五号の発行に伴いご協力頂いた役員並びに関係者各位に感謝致します。

また、昨年は台風の被害によりウォークラリーができなかったのが残念でした。また、編集にあたり企画部の皆さんご苦労さまでした。